

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 こくご」二年 年間指導計画作成資料

【構成】

各ページとも表形式で示した。上部に表組みの項目を置いてあるので、それに依ってご覧いただきたい。

【凡例】

配 当 月 ……目安としての配当月を示した。

時 数 ……単元・教材ごとの時数を示した。

単 元 ・ 教 材 ……単元名及び教材名を示し、その下に時数の配分を丸数字で示した。
例（書①読①）…書くこと1時間，読むこと1時間の配分を示す。

■ 学 習 目 標 ……単元及び教材を扱う際に目標とすることを示した。

<学習指導要領との対応> ……該当する学習指導要領の領域・項目・指導事項を示した。

◎印は重点項目

話聞…話すこと・聞くこと

書 ……書くこと

読 ……読むこと

伝国…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

学 習 活 動 ……単元及び教材の主たる学習活動を示した。数字は学習の順序を想定したものにしてある。

評 価 規 準 ……教材ごとに該当する学習指導要領の項目に合わせて示した。

【関心】 ……国語への関心・意欲・態度

【話聞】 ……話すこと・聞くこと

【書く】 ……書くこと

【読む】 ……読むこと

【伝国】 ……伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 こくご」二年上巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準		
		<学習指導要領との対応>				
4	1	<p>「ねぎぼうずのがくたい」 (読①) ■言葉の響きやリズムを楽しみながら、音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①言葉のリズムをとらえながら、音読する。 ②読み方を工夫して音読する。</p>	<p>【関心】楽しみながら、「ねぎぼうずのがくたい」を読もうとしている。 【読む】ねぎぼうずの様子や自分の思いが伝わるように、工夫して音読している。 【伝国】繰り返しによる表現に気付いている。</p>		
	2	<p>学びゆうづくり 「『みんなでぬりえ』ゲーム」 (話聞②) ■ゲームを楽しむために、はっきりと話したり、しっかりと聞いたりすることができる。</p> <p>◎話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ○話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○伝国イ(キ)：敬体で書かれた文章に慣れること。</p>			<p>①本文の指示に従い、ゲームの準備をする。 ②「みんなでぬりえ」ゲームを楽しむ。 ③おもしろかったところや難しかったところを話し合う。</p>	<p>【関心】「『みんなでぬりえ』ゲーム」に関心をもち、楽しみながら、進んで話したり聞いたりしようとしている。 【話聞】伝えたいことが伝わるよう、はっきりとした声で話している。 【話聞】大事なことを落とさないように集中して聞いている。 【伝国】敬体を使う場面に気付いている。</p>
	2	<p>みんなで本をたのしもう 「ランパンパン」 (読②) ■楽しかったところを出し合ったり、人物に同化して役割音読をしたりして、物語を楽しみながら読むことができる。 ■おもしろい音の出でくる本を選んで音読したり、感想を伝え合ったりすることができる。</p> <p>◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(2)イ：物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>				

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	12	<p>1. おはなしをしようかいしよう 「スイミー」 (読⑨書③) ■場面の様子を想像しながら読み、気に入ったところを、理由を入れながら紹介文にすることができる。</p> <p>○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)エ：物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 ○読(2)オ：読んだ本について、好きなところを紹介すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(エ)：長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国イ(オ)：句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ○伝国イ(キ)：敬体で書かれた文章に慣れること。</p>	<p>①「スイミー」を読み、作品のおもしろさなどを出し合う。 ②場面分けをし、人物の様子を想像しながら、小見出しを付ける。 ③場面の様子を表す表現をとらえながら読む。 ④気に入った場面などを紹介する文章を書いて、交流し合う。</p>	<p>【関心】スイミーの様子や泳いでいるまわりの様子に関心をもち、楽しみながら読み進めようとしている。 【書く】「スイミー」を読んで気に入った理由などを挙げ、伝えたいこととのつながりを考えながら紹介文にまとめ、文章を読み返したり伝え合ったりしている。 【読む】叙述を基に、場面とスイミーの様子を想像しながら音読している。 【読む】大事な言葉や文を書き抜いたり、自分の気持ちに合う言葉で感想をもつことを理解している。 【伝国】倒置法の表現に気付いている。 【伝国】お話し紹介の文で長音などの表記や、助詞の使い方、句読点やかぎなどの使い方を意識している。 【伝国】片仮名を読んだり書いたりしている。</p>
	3	<p>ことばのきまり 1 「かぎ(「」)のつかい方」 (言②書①) ■「」の使い方を理解することができる。</p> <p>○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎伝国イ(オ)：句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。</p>	<p>①「」の無い文章を読み、その分りにくさから、「」の必要性をとらえる。 ②「」を書く時のきまりに従って、例文に、「」を付けて書き直す。 ③「」の使い方に注目しながら、「ろくべえまってるよ」を読む。</p>	<p>【関心】「」の使い方に関心をもち、適切に使おうとしている。 【書く】「」を文中で適切に使って書いている。 【伝国】「」の働きやきまりをとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	2	かん字のへや1 「かん字の画と画数」 (言②) ■漢字の画や画数の意味や画の名前を 理解することができる。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年 までに配当されている漢字を読むこと。ま た、第1学年に配当されている漢字を書き、 文や文章の中で使うとともに、第2学年に配 当されている漢字を漸次書き、文や文章の中 で使うこと。	①本文を読み、漢字の画や画数 の意味や画の名前について理 解する。 ②画数に着目して、漢字を調べ る。	【関心】漢字の画や画数に対す る関心を高め、使おうとしてい る。 【伝国】漢字の画や画数につい て理解し、適切に使っている
	4	読むために書く 「線びきとぬき書き」 (書②読②) ■「線引き」と「抜き書き」の仕方を理 解することができる。 ◎書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注 意しながら、つながりのある文や文章を書く こと。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序など を考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書 き抜くこと。 ○読(2)エ：物語や、科学的なことについて 書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語と の関係に注意すること。	①本文を読み、線引きと抜き書 きをする意味ややり方をとら える。 ②指示に従い、線引きや抜き書 きをする。 ③抜き書きした言葉の関係を とらえる。	【関心】線引きと抜き書きの意 味やしかたに関心をもち、使お うとしている。 【書く】抜き書きしたことを、 語と語、文と文との続き方に気 を付けて文章にしている。 【読む】内容や関係をとらえる ために、線引きや抜き書きをす ることの意味やしかたを理解 している。 【伝国】抜き出した文の主述の 関係に気付いている。
	1	あたらしいかん字 (言①) ■学年配当漢字を読み書きすることが できる。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年 までに配当されている漢字を読むこと。ま た、第1学年に配当されている漢字を書き、 文や文章の中で使うとともに、第2学年に配 当されている漢字を漸次書き、文や文章の中 で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を 読んだり書いたりする。 ②練習をする。	【関心】漢字に対する関心を高 め、適切に使おうとしている。 【伝国】二年に配当されている 漢字を読み書きしている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	5	<p>2. ペンギンの子そだてをまとめよう 「エンペラーペンギンの子そだて」 (読④書①) ■時間の順序に気を付けながら、ペンギンの子育てのしかたを読み、感想をまとめることができる。</p> <p>○書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ◎読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)エ：物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①季節ごとのエンペラーペンギンの様子を、表にまとめる。 ②エンペラーペンギンがすることとその理由を読む。 ③文章を読んで、思ったことやおどろいたことなどの感想を書いて、交流し合う。</p>	<p>【関心】エンペラーペンギンの子育てのしかたに関心をもち、それらを季節を考えながら読もうとしたり、感想にまとめようとしていたりしている。 【書く】初発や読後の感想を、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き、自分の感想を書いている。 【読む】時間の順序や語のまとまりに気を付けながら、エンペラーペンギンがしたこと、そうした理由を読み、自分の考えをまとめている。 【伝国】それぞれのペンギンがどうしているか主述の関係からとらえている。</p>
	3	<p>ことばのいずみ1 「音やようすをあらわすことば」 (言②書①) ■擬音語や擬態語の使い方を理解することができる。</p> <p>○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(イ)：音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国ウ(ア)：平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①擬音語を使って短文を作る。 ②擬態語を使って短文を作る。</p>	<p>【関心】擬音語や擬態語に関心をもち、適切に使おうとしている。 【書く】擬音語や擬態語を適正に使った文を書いたり確かめたりしている。 【伝国】平仮名や片仮名を読み、擬音語を片仮名、擬態語を平仮名にして文を作っている。 【伝国】同じ言葉がアクセントの違いにより、意味が変わることに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	2	<p>かん字のへや2 「かん字のでき方」 (言②) ■漢字には、ものの形からできた字と、漢字の意味を合わせた字があることを理解することができる。</p> <p>◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み、象形文字の由来や成り立ちをとらえる。 ②会意文字の由来や成り立ちをとらえ、漢字が増えていった経緯を理解する。</p>	<p>【関心】漢字のでき方に関心を持ち、由来や成り立ちを知り、書こうとしている。 【伝国】象形文字や会意文字の由来や成り立ちを理解している。</p>
5	5	<p>書き方・まとめ方 「メモの書き方」 (書③話聞②) ■メモの取り方を理解し、使うことができる。</p> <p>○話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○話聞(2)ウ：場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。 ○書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(2)エ：紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を参考に、「お話メモ」を作り、それを基に話す。 ②例示された「聞き取りメモ」を比べ、分かりやすいメモの書き方をとらえる。 ③連絡を聞いて、「聞き取りメモ」を作る。</p>	<p>【関心】メモの書き方に関心を持ち、話したり聞いたりすることに生かそうとしている。 【話聞】連絡事項の大事なことを聞き取っている。 【書く】伝えようとする事柄が明確になるように整理しながらメモを書き、分かりにくいところを直している。 【伝国】伝えたいことを簡潔に表す方法に気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	10	<p>3. しらせたいことを話そう 「じぶんでチャレンジ」 (話聞⑧書②) ■話の順序を考えて、したことの様子を報告することができる。</p> <p>◎話聞(1)ア：身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 ◎話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ◎話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ○話聞(2)ア：事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 ○話聞(2)エ：知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。 ○書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(オ)</p>	<p>①手伝いをした経験について出し合い、自分が何を報告するかを決める。 ②出し合ったことを基に、取材カードを書く。 ③カードを基に、組み立てシートを書き、話す準備をする④分りやすく伝わるよう、はっきりとした声で話すなどして、報告し合う。 ⑤報告の感想などを交流し合う</p>	<p>【関心】報告したいことを、順序などの組み立てを考えながら話そうとしている。 【話聞】場に応じた適切な言葉遣いを意識したり、発音や間の空け方などに注意したりしながら発表している。 【話聞】身近なところから必要な事柄を考えて話し、大事なことに注意して聞いたり、話し手の意図がより伝わるようにするためにはどうすればよいかを助言し合ったりしている。 【書く】報告したいことがはっきりと伝わるよう、組み立てを考えながら、カードやシートにまとめている。 【伝国】会話文を用いる際の「」の使い方を確かめ、適切に用いている。 【伝国】「いつ」「どこで」など、相手に分かりやすく伝えるための言葉を押さえている。</p>
	3	<p>あたらしいかん字 ことばをつないで文をつくろう (書③) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ■前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②練習をする。 ③既習漢字を使って、文を作る。 ④適正文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】語と語の続き方に注意して文を作り、読み返して確かめている。 【伝国】二年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	3	ことばのきまり2 「主語と述語」 (言②書①) ■主語と述語について知り、文の構造を調べるができる。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。	①本文を読み、基本文型における主語と述語の働きをとらえる。 ②主語と述語が文のどれに当たたるかを見つける。 ③主語と述語の関係を確かめながら文を作る。	【関心】文の構造に対して関心をもち、調べようとしている。 【書く】主語と述語の働きを考えて、つながりのある文を書いている。 【伝国】主語と述語の働きをとらえ、確かめている。
	2	かん字のへや3 「ひつじゅんのきまり①」 (言②) ■漢字の筆順の大体のきまりをとらえることができる。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①本文を読み、漢字の筆順の大体のきまりをとらえる。 ②筆順に気を付けて、指定された漢字を書く。	【関心】漢字の筆順に対する関心をもち、確かめようとしている。 【伝国】漢字の筆順のきまりをとらえ、それらに気を付けながら漢字を書いている。
	10	4. カレンダーにまとめよう 「ほたるの一生」 (読⑨書①) ■時間の順序に気を付けながら読むことができる。 ■問いに対する答えを確かめながら読むことができる。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(2)ウ：身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ウ：事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。	①問いの文について考える。 ②ほたるの一生の様子を、カレンダー形式の表にまとめる。 ③問いの文に対応する答えを読む。 ④カレンダー形式の表にまとめたことを生かして、ほたるの一生を、一文で表す。	【関心】「ほたるの一生」を順序に気を付けて読み、カレンダー形式の表にまとめ、そこから分かるほたるの一生の特徴をとらえようとしている。 【書く】語と語の続き方に注意しながらほたるの一生を一文にまとめている。 【読む】順序に気を付けて全体を読み、大事な言葉を書き抜いてカレンダー形式の表にまとめている。 【読む】「問い」と「答え」の文を書き出してほたるの一生についてとらえるとともに、問いと答えのつながりを確かめながら音読している。 【伝国】時間や時を特定する言葉の使い方に気付いている。 【伝国】主述の関係をとらえている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	4	<p>読むために書く 「ひょうを作る」 (読②書②) ■表の作り方と活用のしかたを理解することができる。</p> <p>◎書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①本文を読み、文章を表にすることのよさやその方法をとらえる。 ②指示に従い、線引きや抜き書きをして、表にまとめる。</p>	<p>【関心】文章を表にすることのよさや方法に関心を持ち、使おうとしている。 【書く】語と語の続き方に注意しながら、短い文にまとめている。 【読む】内容などが分かりやすくとらえることができるよう、大事なことを見つけている。 【伝国】短文から主述の関係をとらえている。</p>
	14	<p>5. どくしょをたのしもう 「きつねのおきゃくさま」 「お話クイズ大会をしよう」 本と友だち どくしょのへや (読③話聞①) ■楽しみながら、物語を読み進めることができる。 ■好きな本を選んで読み、読書の幅を広げることができる。 ■クイズを作って答え合うことで、物語を楽しみながら読むことができる。</p> <p>○話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ◎読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①場面や人物の様子などを想像しながら読み進める。 ②感想や読み取ったことを友達と交流し合う。 ③場面や人物の様子などが伝わるように、工夫して音読する。 ④「きつねのおきゃくさま」はおもしろかったか、かわいそうだったかを出し合う。 ⑤指示に従ってクイズに答え、クイズの作り方をとらえる。 ⑥クイズを作って出し合う。 ⑦繰り返しのある物語を探して、友達と読み合う。 ⑧関心のある本を選んで読み、読書の幅を広げる。 ⑨感想などを伝え合う。</p>	<p>【関心】「きつねのおきゃくさま」のお話の登場人物が出てくる順番や、場面の様子に注目しながら読むとともに、繰り返しの表現に気付き、その手法が用いられている他の物語を探して読むなどの活動を通し、読書生活を楽しもうとしている。 【話聞】言葉遣いなどに注意しながら作品のおもしろさについて話し合ったり、クイズを出して聞き合ったりしている。 【読む】ひよこ・あひる・うさぎの会話と、それを聞くきつねの心の様子を、読み取っている。 【読む】お話クイズを作るために文章中の言葉や文に注目して読み返し、書き抜いたりどんな繰り返しが出てきたかを見つけるために他の物語を読み進めたりしている。 【読む】選んだ本のおもしろさをとらえながら読み進めている。 【伝国】主述の関係に注意して、人物の様子をとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	3	<p>あたらしいかん字 ことばをつないで文をつくろう (書③) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ■前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎伝国ウ(ウ)：, 学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②練習をする。 ③既習漢字を使って、文を作る。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を持ち、適切に使おうとしている。 【書く】語と語の続き方に注意して文を作り、読み返して確かめている。 【伝国】二年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>
9	2	<p>しをあじわおう 「たべもの」 「いろんなおとのあめ」 (読②) ■様子などを想像しながら、工夫して音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①詩の内容や表現のしかたで、おもしろかったところを話し合う。 ②読み方を工夫して音読する。</p>	<p>【関心】内容や表現のおもしろさに関心を持ちながら、詩を読もうとしている。 【読む】様子や自分の思いが伝わるように音読している。 【伝国】擬音・擬態の言葉をとらえている。</p>
10		<p>むかしのものがたりをたのしもう 「ヤマタノオロチ」 (言⑧読②) ■神話の世界を楽しみ、他の神話との相違点を話し合ったり、読み進めたりすることができる。</p> <p>○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ◎伝国ア(ア)：昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。</p>	<p>①場面の様子や人物の言動を読み取る。 ②好きな場面を選んで、音読する。 ③大蛇や竜が出てくる他の物語と、どんなところが似ているかを話し合う。 ④「因幡の白うさぎ」や「海幸山幸」などの関連した物語を読み進める。</p>	<p>【関心】神話「ヤマタノオロチ」に関心を持ち、描かれている様子を楽しみながら読もうとしている。 【読む】場面や人物の様子などを想像しながら音読している。 【伝国】神話を読んだり読み聞かせを聞いたりして、その感想を伝え合っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	5	<p>手紙を書こう 「知らせたいことを手紙に書こう」 (書⑤) ■伝えたいことを明らかにしながら、書式に合わせ、丁寧な言葉を使って、手紙を書くことができる。</p> <p>○書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ◎書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)オ：伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。 ○伝国イ(エ)：長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国イ(オ)：句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。 ○伝国イ(キ)：敬体で書かれた文章に慣れること。</p>	<p>①伝えたいことを表にまとめる。 ②表や例示の手紙と封筒書きを基に、手紙を書いたり封筒書きをしたりする。 ③書いた手紙を読み返し、推敲する。 ④友達に伝えたいことを手紙にして出す。</p>	<p>【関心】「だれに」「どんなこと」を知らせたいのかを決めて、進んで手紙を書こうとしている。 【書く】相手意識や目的意識をもち、「はじめ」「中」「終わり」の形式や文のつながりに注意して手紙を書き、読み返して分かりにくいところを直している。 【書く】友達と手紙を出し合い、感想を伝え合っている。 【伝国】丁寧な言葉遣いや、句読点の打ち方、助詞の使い方、主述の関係などに注意している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	8	<p>6. ちがいをせつ明しよう 「たこのすみ いかのすみ」 (読⑥書②) ■たこのすみといかのすみを整理して 比べ、その違いを読むことができる。</p> <p>○書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)オ：伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。 ○書(2)ウ：身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ウ：事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①問いの文と答えの文を見つけて書き抜く。 ②たこのすみといかのすみの相違点をとらえながら、表に整理する。 ③どうして違いがあるのが、図にまとめて説明する。 ④自分の知っていることを観察するなどして、他の似ているものとの相違点を比べた文章を書き、読み合う。</p>	<p>【関心】たこといかのすみに関心をもち、その違いを読んだり、説明したりしようとする。 【書く】ものの似ているところと違うところを整理して見つけ出し、比べ、つながりのある文章を書いている。 【書く】書いた文章を友達と読み合ったり、読み返して直したりしている。 【読む】たこのすみといかのすみの相違点やその理由を比べながら考え、書かれている事柄を表に整理したり説明したりしている。 【読む】身近なものを比べている本や、比べることができる本を探して読んでいる。 【伝国】たこといかのすみそれぞれどのようなものであるか、主述の関係に注意してとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	10	<p>7. 知ろう・つたえよう 「ちがいをくらべて書こう」 (書⑩) ■違いが分かるように、組み立てを考えながら、書いたり伝え合ったりすることができる。</p> <p>○書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)イ：経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ○書(2)ウ：身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ○書(2)エ：紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 ○伝国イ(オ)：句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。</p>	<p>①比べるものを出し合う。 ②大きさや色、形などに注目して違いを見つけ、カードにまとめる。 ③比べる視点に沿って、表に整理する。 ④表を基に、始めと終わりの言葉を入れて、違いが伝わる横書きの文章にする。 ⑤読み返して推敲し合ったり、読み合って感想などを伝え合ったりする。</p>	<p>【関心】ものの違いに関心を持ち、書いたり発表したりしようとしている。 【書く】カードや組み立て表に違いを集めて書き出し、それを基に、違いが伝わるように構成を考え、文と文との続き方に注意しながら文章を書いている。 【書く】違いがよく分かるように書けたか読み返したり、友達と読み合いよいところを見つけ合ったりしている。 【伝国】横書きの文章の読点に「，」を使って書いている。</p>
10	2	<p>ことばのいずみ2 「くみあわせたことば」 (言①書①) ■二つの動詞を組み合わせると、言葉の意味が加わり、広がることを理解することができる。</p> <p>○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、二つの動きを表す言葉を組み合わせでできた言葉があることをとらえる。 ②例示された表現がどう違うかを比べる。 ③言葉を組み合わせで、複合語を作ったり文中で使ったりする。</p>	<p>【関心】複合語に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】組み合わせた言葉を使った文や文章を書き、読み返して間違いなどを正している。 【伝国】動詞の組み合わせによる意味や表現の変化や広がりをとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	2	かん字のへや4 「ひつじゅんのきまり②」 (言②) ■漢字の筆順の大体のきまりをとらえることができる。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①本文を読み、漢字の筆順の大体のきまりをとらえる。 ②筆順に気を付けて、指定された漢字を書く。	【関心】漢字の筆順に対する関心をもち、確かめようとしている。 【伝国】漢字の筆順のきまりをとらえ、それらに気を付けながら漢字を書いている。
	2	あたらしいかん字 ことばの広場 「ものを数えることば」 (言①書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ■助数詞を適切に使うことができる。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ◎伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②助数詞を使って物を数える。	【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】二年に配当されている漢字を読み書きし、文中で使って確かめている。 【関心】助数詞に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】物に合わせて助数詞を使い分けている。
-	(12)	◆「おまえうまそうだな」 ■言葉の伝わり方や、描かれている人物の様子を楽しみながら、物語を読み進めることができる。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	①勘違いの様子を楽しむことができる。 ②人物の触れ合う様子の変化を押さえながら読むことができる。	【関心】物語を読む楽しさを知り、進んで他の本も読もうとしている。 【読む】ウマソウとティラノサウルスが触れ合う様子をとらえながら読んでいる。 【伝国】会話を中心にして人物の様子が伝わってくる展開に気付いている。
-	-	◆「図書しつに行って読もう」 ■図書室で本を探したり選んだりして読むことができる。 ■図書室の利用のしかたが分かる。 ◎読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	①図書室のことで知っていることを出し合う。 ②図書室で本を選んで読む。 ③今までに読んだ本の中で、おもしろかった本のことをカードなどに書いて紹介する。	【関心】生活の中で役立てたり知識を得たりするために、本を選んだり探したりして読もうとしている。 【読む】図書館の利用のしかたが分かり、楽しんだり知識を得たりするために本を読もうとしている。

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 こくご」二年下巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	<p>「いちばんぼし」 (読①) ■音読を工夫し、楽しみながら詩を読むことができる。</p> <p>◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①音読し、様子を考える。 ②比喻などの表現効果について考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。</p>	<p>【関心】楽しみながら、詩を読もうとしている。 【読む】様子や自分の思いが伝わるように、工夫して音読している。 【伝国】星を人の目になぞらえている表現に気付いている。</p>
	8	<p>1. じゅんじょのわけを考えよう 「食べるのは、どこ」 (読⑥話聞②) ■事柄の順序に気を付けながら、それらをどのように説明しているかを読み取ることができる。</p> <p>○話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(2)ア：事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ウ：事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、この文章がどんなことを説明しているか、それが分かる言葉や一文を書き出す。 ②どこを食べる、どんな野菜が、どんな順序で出てきたか、また、その理由などを図にまとめ、話し合う。 ③他の野菜はどこを食べるのか、説明する順序やその理由を考えて、説明し合う。</p>	<p>【関心】野菜のどこを食べるかに関心をもち、読み進めようとしている。 【話聞】他の野菜の食べる場所について調べ、説明する順序や理由を考えて伝えている。 【読む】事柄の順序に気を付けて、どのように説明しているかを読んでいる。 【読む】この文章が何について説明しているのかが分かる文を書き抜き、他の野菜について書いてある文章と結び付けてまとめている。 【伝国】「野菜」という総称の中に様々な種類の野菜が含まれていることに気付いている。</p>
	3	<p>ことばのきまり1 「ものをくわしくあらわすことば・さししめすことば」 (言②書①) ■連体修飾語や指示語の働きを理解し、適切に使うことができる。</p> <p>○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、連体修飾語の働きをとらえる。 ②どの時計を示しているか、連体修飾語を使って、クイズを出し合う。 ③指示語の働きを理解し、どの時計を示しているか、指示語からとらえる。 ④連体修飾語や指示語を使った文を作り、読み合う。</p>	<p>【関心】連体修飾語や指示語に対する関心を高め、適切に使うとしている。 【書く】文と文の続き方に注意しながら、連体修飾語や指示語を使った文を書いている。 【伝国】連体修飾語や指示語が果たす役割について理解し、使っている。</p>

配当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	2	<p>かん字のへや1 「かん字の読み方①」 (言②) ■漢字のいろいろな読み方や送り仮名、読み方が同じだったり、読み方や意味が似ている漢字への理解を深めることができる。</p> <p>◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み、漢字のいろいろな読み方や送り仮名の意味、意味の違いによる漢字の書き分けについてとらえる。 ②意味の違いを考えて、漢字を書く。</p>	<p>【関心】漢字の読み方に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】意味の違いによる使い分けを理解し、適切に漢字を書いている。</p>
11	10	<p>2. 話し合って考えをまとめよう 「やっごらんおもしろいよ」 (話聞⑩) ■事柄の順序に従って書いたメモを基に、話題からそれないように考えを出し合ったり、やり方などを分かりやすく説明したりすることができる。</p> <p>◎話聞(1)ア：身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 ◎話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ◎話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ◎話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ◎話聞(2)イ：尋ねたり応答したり、グループで話し合って考えを一つにまとめたりすること。 ◎話聞(2)ウ：場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりすること。 ◎話聞(2)エ：知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。 ◎伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ◎伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①本文を読み、学習のねらいや手順をとらえる。 ②どんな遊びがよいか、意見を出し合って決めたり、大事なことは何かを話し合ったりする。 ③決まったことを書き出したり、説明の練習をしたり、お知らせをしたりする。 ④やり方が分かるように説明しながら、遊び大会をする。</p>	<p>【関心】一年生との交流を企画する話し合い活動に関心をもち、自分の意見をもちながら、話し合いに参加しようとしている。 【話聞】尋ねたり答えたりして友達のよい意見を取り入れながら、話題からそれないように話し合って考えをまとめたり、分かりやすく説明したりしている。 【話聞】話し合いに必要な事柄を考え、相手に応じて話すことの順序を整理している。 【話聞】相手に届く声ではっきりと話したり、話し合って決まったことを落とさず聞いたりしている。 【伝国】自分たちの経験に基づいて伝えていることに気付いている。 【伝国】分かりやすく伝えるための主述の関係をとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	3	ことばのいずみ1 「声に出してたしかめよう」 (言③) ■手をたたいたり声に出したりしながら音の数を確かめたり、アクセントによる意味の違いをとらえたりすることができる。 ◎伝国イ(イ)：音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。	①手をたたいたり声に出したりしながら、音の数を確かめる。 ②音の高低であるアクセントの違いによる意味の違いをとらえる。 ③指示された言葉のアクセントについて確かめる。 ④アクセントの位置によって意味が違ってくる言葉を探し、文を作る。	【関心】音の数やアクセントに関心をもち、確かめたり適切に使ったりしようとしている。 【伝国】音の数やアクセントの位置による意味の違いをとらえ、適切に使っている。
	2	かん字のへや2 「かん字の読み方②」 (言②) ■漢字の意味といろいろな読み方や意味を考えて、使い分けをすることの大切さをとらえ、漢字への理解を深めることができる。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①本文を読み、漢字の読み方や意味の違いによる漢字の書き分けについてとらえる。 ②意味の違いを考えて、適切な漢字を書く。	【関心】漢字の読み方に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】同音異義語を理解し、適切に漢字を書いている。
	6	しを書こう 「したことをいきいきと」 (書⑥) ■音や様子を表す言葉を入れるなどの工夫をして、詩を書くことができる。 ◎書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)ア：想像したことなどを文章に書くこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	①本文を読み、例示された詩を比べることで、音や様子を表す言葉を入れるなどの工夫をすると、生き生きとした表現となることをとらえる。 ②音や様子を表す言葉を入れるなどの工夫をして、詩を書く。 ③書いた詩を友達と読み合い、感想を交流し合う。	【関心】生き生きとした表現となるよう、工夫して詩を書こうとしている。 【書く】音や様子を表す言葉を集めて用いるなど、詩的な表現の工夫をしながら書き、間違いなどを正している。 【書く】書いた詩を読み合い、そのよさなどを交流し合っている。 【伝国】擬音語や擬態語を使った伝え方があることに気付いている。

配当月	時数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	3	<p>新しいかん字 ことばをつないで文を作ろう (書③) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ■前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って、文を作る。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】語と語の続き方に注意して文を作っている。 【伝国】二年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>
12	16	<p>3. とう場人ぶつになって読もう 「かさこじぞう」 (読⑬書③) ■場面や人物の様子を想像しながら読み取ることができる。</p> <p>○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)オ：伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①登場人物を確かめ、じいさまがいつ、どこで、だれと、どんなことをしたかをとらえる。 ②場面ごとの人物の様子や行動を、想像しながら読む。 ③最初の場面と最後の場面とを比べ、じいさまとばあさまの変わったところと変わらなかったところを考える。 ④じぞうさまたちのしたことについて話し合う。 ⑤じいさまやばあさまについて、どう思うか手紙形式で感想を書き、交流し合う。</p>	<p>【関心】「かさこじぞう」に描かれている場面や人物の様子に関心をもち、読み進めようとしている。 【書く】登場人物に対する感想を、手紙形式でまとめ、交流し合っている。 【読む】場面や人物の様子を想像しながら抜き書きしたり、語のまとまりなどに気を付けて音読したりしている。 【読む】文章の内容と、それに対する自分の感想をまとめている。 【伝国】だれがどうしたのか主述の関係からとらえている。</p>

配当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	1	新しいかん字 (言①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ◎伝国ウ(ウ)：，学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②練習をする。	【関心】 漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【伝国】 二年に配当されている漢字を読み書きしている。
	5	読書を広げよう 「『本の本』を作ろう」 (書③読②) ■「始め」「中」「終わり」を意識して、本のあらすじをまとめ、友達と感想などを交流し合うことができる。 ◎書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ○書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)エ：紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)オ：読んだ本について、好きなところを紹介すること。	①本文を読み、学習のねらいや手順をとらえる。 ②示された手順や作品例を基に「本の本」を作る。 ③作った「本の本」を読み合い、感想を伝え合ったり、次はどの本を読みたいか考えたりする。	【関心】 「本の本」作りに関心をもち、お薦めの本を紹介しようとしている。 【書く】 読んだ本を紹介するためにつながりのある文章を書き、読み合って感想を伝えたり、間違いを正したりしている。 【読む】 選んだ本のあらすじやおもしろさなどをとらえている。 【読む】 「本の本」作りに必要な文を書き抜き、絵と合わせてまとめている。
	1	本と友だち 読書のへや (読①) ■読書を楽しむことができる。 ◎読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)エ：物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 ○読(2)オ：読んだ本について、好きなところを紹介すること。	①本文を読み、紹介された本のおもしろいところをとらえる。 ②読書を楽しむ。	【関心】 読書に関心をもち、本を読み進めようとしている。 【読む】 紹介された本のおもしろいところなどをとらえている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	9	<p>4. お話を作ろう 「つづき話を作ろう」 (書⑨) ■読み手に伝わるよう、組み立てや表現を工夫して、続き話を書くことができる。</p> <p>◎書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ○書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ◎書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ○書(2)ア：想像したことなどを文章に書くこと。 ○伝国イ(エ)：長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ○伝国イ(オ)：句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。</p>	<p>①指示に従い、続き話作りの練習をする。 ②例示を参考にしながら、続き話の最初を考える。 ③続きを書く。 ④書いた続き話を読み合い、よかったところなどを伝え合う。</p>	<p>【関心】「かさこじぞう」の続き話作りに関心をもち、物語の続きを想像して書く活動を楽しもうとしている。 【書く】想像したことを基に場面や構成人物を決め、文と文との続き方に注意しながら続き話を書いている。 【書く】書いた続き話を読み、よりよくなるよう書き直している。 【書く】書いた続き話を読み合い、感想を伝え合っている。 【伝国】助詞の使い方や句読点の打ち方に注意している。</p>
1	2	<p>ことばでつたえよう 「どう言えばいいかな」 (話聞②) ■同じ話題で対話しても、話し方次第で、相手の受け取り方が変わることとらえ、上手な伝え方を考えることができる。</p> <p>◎話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、どう言えばよかったかを考える。 ②みんなが笑顔になるような話し方や表情を考えて、対話する。 ③話し方を相互評価し合う。</p>	<p>【関心】友達と楽しく話したり聞いたりすることについて考えようとしている。 【話聞】相手の気持ちを考えて適切な言葉遣いで話している。 【伝国】言葉の働きを理解し、よりよい伝え方について考えている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	2	ことばのきまり2 「文のおしまいのひょうげん」 (書①言①) ■文末表現による意味の違いを理解することができる。 ○書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 ○伝国イ(キ)：敬体で書かれた文章に慣れること。	①例文を読み、文末表現による意味の違いをとらえる。 ②文末表現をよりどころに、反対を表す表現や動作の始動・継続・完了を表す表現、敬体の表現についてとらえる。 ③適正な文を作り、確かめる。	【関心】文末表現による意味の違いに関心をもち、適切に使おうとしている。 【書く】文中の文末表現に注意して、使い分けて書き換えて、確かめている。 【伝国】文末表現による、表す意味の違いや働きをとらえている。
	2	かん字のへや3 「二つのかん字でできたことば①」 (言②) ■二字の熟語についての理解を深め、書くことができる。 ○伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	①本文を読み、漢字を組み合わせでできた言葉についてとらえる。 ②「……の□」「……い□」「……な□」の形にして、言葉の意味を考える。	【関心】熟語に関心をもち、その意味を考えようとしている。 【伝国】漢字の熟語についての理解を深め、意味を考えたり適切に使ったりしている。
	6	5. 作り方をせつ明しよう 「とべとべ回れ」 (書②読④) ■分かりやすい説明の順序と、その説明のしかたをとらえながら読み取り、自分の表現へと生かすことができる。 ○書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○書(2)ウ：身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。	①紙のとんぼを作って遊ぶ方法を、三つのまとまりに分け、それがどんなまとまりかをとらえる。 ②順序を表す言葉や番号、記号などをとらえながら、説明のしかたを読む。 ③図を基に、「びよんびよんがえる」の作り方を説明する。	【関心】動くおもちゃの作り方に興味をもち、作り方の順序をとらえながら読み進めようとしている。 【書く】作り方の図を基に、順序を表す言葉や番号、記号などを使った「びよんびよんがえる」の作り方を説明する文章を、箇条書きなどを用いながら、つながりを考えて文章を書いている。 【読む】紙とんぼの作り方の説明が順序立てて書かれていることをとらえ、それをまとまりごとに書き抜き、理解して読んでいる。 【読む】文章の内容を参考にして「びよんびよんがえる」の作り方をまとめている。 【伝国】用意した材料をどうするのか理解している。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	3	<p>ことばであそぼう 「ことばのリズムを楽しもう」 (言①話聞②) ■詩の音読や早口言葉といった言葉遊びを通して、語句の響きや語感を楽しむことができる。</p> <p>◎話聞(1)ウ：姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 ◎伝国イ(イ)：音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。</p>	<p>①繰り返しなどの詩のおもしろさをとらえる。 ②「早口言葉」を楽しむ。</p>	<p>【関心】詩のおもしろさや言葉遊びに関心をもち、楽しみながら学習しようとしている。 【話聞】声の速さや大きさなどに注意している。 【伝国】語感や言葉の使い方に対する感覚を、意識しながら読んでいる。</p>
	10	<p>6. 体けんしたことをほうこくしよう 「地いきの行事のできごとをほうこくしよう」 (話聞②書⑧) ■伝えたいことを整理して、順序よく報告する文章を書くことができる。</p> <p>◎話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ◎話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ◎話聞(2)ア：事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 ◎書(1)ア：経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 ◎書(1)イ：自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ◎書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎書(1)エ：文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。 ◎書(1)オ：書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。 ◎書(2)イ：経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ◎伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ◎伝国イ(エ)：長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 ◎伝国イ(オ)：句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 ◎伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①地域の行事などを書き出し、何について報告するかを決める。 ②報告することを整理してメモを作る ③メモを基にして、報告する文章を書く。 ④読み返して推敲する。 ⑤書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>【関心】地域の行事の出来事に関心をもち、それを伝えるために整理して、報告文にまとめようとしている。 【書く】何について報告するか決め、報告する事柄を順序立ててメモに書いている。 【話聞】丁寧な言葉遣いで、事柄を順序立てて報告している。 【話聞】できごとについての報告を、興味をもって聞き、感想を交流している。 【書く】集めた事柄を整理したメモを基に、自分が報告したいことが明確になるように組み立てを考え、「はじめ」「中」「終わり」に気を付けて報告文にまとめている。 【書く】分かりにくいところを正したり、書いた文章を読み合ったりして、感想を伝え合っている。 【伝国】様子を詳しくする言葉や指示語を使っている。 【伝国】だれがどうしたのか、主述の関係を明らかにしている。 【伝国】長音などの表記や助詞の使い方、句読点やかぎの使い方を意識している。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	3	ことばのいずみ2 「なかまのことば」 (言③) ■意味のまとまりのある言葉を語彙としてとらえることができる。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	①日や時間、家族、方角や方向の呼び方を知る。 ②仲間の言葉を集めて分かりやすくまとめる。 ③上位概念と下位概念を表す言葉を表にまとめる。	【関心】言葉の意味のまとまりに関心を持ち、適切に言葉を使おうとしている。 【伝国】仲間になる言葉を集めて、意味のまとまりやつながり方に気付き、絵や図表などで説明している。
	2	かん字のへや4 「二つのかん字でできたことば②」 (言②) ■二字の熟語についての理解を深め、書くことができる。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ○伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①反対の意味の漢字でできる二字の熟語を作る。 ②似ている意味の漢字でできる二字の熟語を作る。	【関心】熟語に関心を持ち、その意味を考えようとしている。 【伝国】漢字の熟語についての理解を深め、意味を考えたり適切に使ったりしている。
	3	新しいかん字 ことばをつないで文を作ろう (書②言①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ■前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。 ○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ○伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②練習をする。 ③既習漢字を使って、文を作る。	【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】語と語の続き方に注意して文を作っている。 【伝国】二年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	12	<p>7. 図やひょうにせいりしてせつめしよう 「どんぐり」 (読⑩話聞②) ■時間の順序をとらえながら、どんぐりの様子を読むことができる。</p> <p>○話聞(1)オ：互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 ◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(2)ウ：事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○読(2)エ：物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①全文を読み、問いの文を見つけ、何を説明した文章かをとらえる。 ②春が来た後、どんぐりはどうなったかを表に整理しながら読む。 ③図を使って、どんぐりや動物たちとの関係を読み、説明する。</p>	<p>【関心】季節ごとのどんぐりの様子に関心をもち、時間の順序をとらえながら読み進めようとしている。 【話聞】図表を使って、季節ごとのどんぐりの様子や動物たちとの関係を説明し合っている。 【読む】図表を使い、時間の順序や様子、わけを書き抜いて整理し、それらの関係をとらえながら自分の考えをまとめている。 【伝国】動物とどんぐりの関わりを、主述の関係からとらえている。</p>
3	14	<p>8. 見つけたことを知らせよう 「お手紙」 (読⑫話聞②) ■人物の行動と、そうした理由を想像しながら読むことができる。 ■同一作者の本を読み、感想などを交流し合うことができる。</p> <p>○話聞(1)イ：相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ○話聞(1)エ：大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 ○読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ◎読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ◎読(1)カ：楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ○読(2)ア：本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 ○読(2)オ：読んだ本について、好きなところを紹介すること。 ○伝国イ(カ)：文の中における主語と述語との関係に注意すること。</p>	<p>①全文を読み、登場人物がしたことを確かめる。 ②二人の心の動きが分かる言葉を見つけて想像し、そのわけを考える。 ③「ふたりはともだち」など、同一作者の作品を読み、見つけたこと、気付いたことを交流し合う。</p>	<p>【関心】物語の世界に関心をもち、想像しながら読み進めようとしている。 【話聞】「ふたりはともだち」などを読み、その感想や気付いたことを、話す順序を考え、敬体を使って話したり、大事なことを落とさないようにして聞いたりしている。 【読む】がまくんとかえるくんの行動や心の動き、その理由などを想像しながら音読したり、書き抜いたりしながら読み取り、自分の思いを発表し合っている。 【読む】がまくんとかえるくんが出てくる他の本を読み、気付いたことや見つけたことを知らせ合っている。 【伝国】だれがどうしているのか、主述の関係からとらえている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	3	<p>新しいかん字 ことばをつないで文を作ろう (書②言①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ■前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)ウ：語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 ◎伝国ウ(ウ)：学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②練習をする。 ③既習漢字を使って文を作る。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を高め、適切に使おうとしている。 【書く】語と語の続き方に注意して文を作っている。 【伝国】二年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>
	2	<p>これからのあなたへ 「山」 (読②) ■作者の思いを想像しながら音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①表現から読んだ作者の思いを想像して話し合う。 ②内容を味わいながら音読する。</p>	<p>【関心】作者の思いを想像し、自分の考えをもちながら読もうとしている。 【読む】自分の思いや考えが伝わるように言葉の響きなどに気を付けて音読している。 【伝国】繰り返しの言葉で伝わってくる表現をとらえている。</p>
-	(10)	<p>◆「あいさつのみぶりとことば」 ■大事なことに気をつけて読むことができる。 ■書かれていることの大体を読み取ることができる。 ■読んで考えたことを書きまとめることができる。</p> <p>◎読(1)イ：時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 ◎読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○読(1)エ：文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 ○読(2)ウ：事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 ○伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①本文を読み、題名や書かれていることの大体について確かめ合う。 ②区切りごとに、大事なことに気をつけてくわしく読む。 ③書き抜いたり線を引いたりして、大事なことをつかむ。 ④自分たちが交わしている挨拶について話し合う。 ⑤挨拶について自分の考えを書く。</p>	<p>【関心】挨拶の言葉の意味や由来について説明した文章を読み、世界中で共通する言葉に興味をもって読んでいる。 【読む】挨拶の意味や由来を、文章から見つけながら読んでいる。 【読む】文章の中の大事な言葉や文に注目している。 【読む】挨拶の言葉について自分の経験と結び付けて感想をもっている。 【伝国】日常的に用いている挨拶の言葉を改めて認識している。</p>

配当月	時数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
-	(12)	<p>◆「お父さんの手」 ■場面や人物の様子を想像しながら読み取ることができる。</p> <p>◎読(1)ウ：場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 ○読(1)オ：文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。</p>	<p>①人物の様子を思いうかべながら、全文を読む。 ②登場人物の言動から、心や人柄をとらえる。 ③読んだ感想を交換し合う。</p>	<p>【関心】お父さんとかおりの様子を思いうかべながら読もうとしている。 【読む】場面の様子について、お父さんやかおりに寄り添って想像しながら読んでいる。 【読む】この作品を読んで考えたこと、感じたことを互いに出し合っている。</p>
-	-	<p>◆「となえておぼえることば」 ■言葉の文化に関して、興味をもって学ぶことができる。</p> <p>◎伝国イ(ア)：言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p>	<p>①成句に接したり、知っている成句を唱えたりする。</p>	<p>【関心】成句に注目し、興味をもって学んでいる。 【伝国】言葉の、物事を分かりやすく伝えようとする働きに気付いている。</p>

※285時間中、266時間を各単元に配当。残る19時間は、必要に応じて補充するよう計画。

【配当時数】

領域	話・聞	書	読	伝国	合計
時数	35	82	103	47	266